

《ちょっと考えてみませんか?》

5月31日付の朝日新聞によると—「環境省は自治体によるゴミ処理の有料化の方針を決めた。現状では減量化目標の達成が難しいうえ、最終処分場が10年余後に逼迫するからだ。来年初めにも基本方針に盛り込むという。

現在有料化している市町村は4割程度。有料化によってゴミは少し減っているが、国の減量目標達成は困難な状況だ。」・・・と言う事です。

昔は、こんなにゴミはなかった。生活スタイルが変わり、近くの八百屋さん魚屋さんも姿を消し、かつては紙に包んだ野菜も、みんなビニール袋の中。わが家でも週2回出すゴミはほとんどビニール類です。生ゴミはなんとか利用しようと、いろいろ堆肥化を試みています。

それでは、その生ゴミ処理方法を。

生ゴミ処理法

「今井式生ゴミ分解装置」と「ぼかし肥」
一発酵

今から6年ほど前、名古屋のお医者さんがやっている生ゴミ処理法が新聞で紹介された。名づけて「今井式生ゴミ分解装置」。フタ付きポリバケツでボカシを使って処理していた私は、臭いや虫の発生で悩んでいたので、すぐ実行してみた。

容器は、漬物樽・バケツ・植木鉢など。私は空きプランターの底に水抜き用の穴を追加して使った。深さ50cmほど土を入れたところに生ゴミを入れ、かき混ぜる。ゴミを表面に残さず、土の表面を乾燥させておくこと。そうすればハエなど虫が来ない。プランターは横長なので、右端・真ん中・左端と日毎に場所を変えてゴミを入れた。何日かすると、ゴミが分解され、掘り返すとパワーと暖かい。いやな臭いもあまりない。嬉しくなって続けた。お奨めの生ゴミ処理方法だった。

しかし冬になると気温が下がり、ゴミの分解速度が鈍った。そこで市の購入助成金を利用して電気式の生ゴミ処理機を購入した。一定の温度に保たれるので冬も生ゴミは調子よく堆肥となり、春の畑に役立った。

「今井式生ゴミ分解装置」はやめてしまった・・・。だが、電気式の生ゴミ処理機はお金がかかるのだ。電気代の他に数ヶ月毎に交換する微生物資材を買わなくてはならない。交換しないと水分が多くなって団子状になりゴミは腐敗し始める。

そんな時、Iさんから「ぼかし肥」を頂いた。サラサラとしている。麹菌のいい匂いがした。「ぼかし肥」の微生物は米ぬかが好きだそうだ。

段ボール箱がよいというので、底が抜けたりしないよう補強し、水分が蒸発しやすいよう垂木の上に置いた。動物予防の金網のフタもした。生ゴミと米ぬかを入れて混ぜておき、次の日見に行ったら、もう発熱して暖かくいい匂いがしていた。発酵！小さな虫が発生するがあまり気にならない。

「今井式生ゴミ分解装置」と「ぼかし肥」は、どちらも微生物による生ゴミ分解なのでよく似ている。が、匂いが違う。「ぼかし肥」の匂いはとてもよい。どちらも大きな魚の頭も骨も見事に分解してしまう。冬の期間、「ぼかし肥」は順調だった。日が当たるところが良い。「今井式生ゴミ分解装置」も雨のかからない日の当たるところに置けばよいかもしれない。

大量の微生物が有機物を食べて呼吸する際に出る熱。60度を超すこの熱で腐敗菌が死ぬのだそうだ。自然の営み・循環を教えられた。生活の中で培ってきた先人たちの知恵。機械に頼らなくてもお金を使わなくても、生ゴミは良い肥料となって、また食卓を豊かにしてくれる。自分の手で混ぜ、微生物の様子を見ながら育てる手間を厭わなければ・・・。

(松井和子)



診療所の庭のすみの「ニガイチゴ」
茎は粉をふいたように白く、よく枝わかれます。細かいとげが多い。葉のうらは白色。4月に白い花をつける。熟(じゅく)した赤い実は食べるとおいしい。

産廃問題勉強会・報告

ごみの山はなぜ出来たのか

講師 石井亨さん/香川県県議
(廃棄物対策手島住民会議代表)

講師 中村梧郎さん/フォトジャーナリスト
(「母は枯葉剤を浴びた」著者)



石井亨さん



中村梧郎さん

5月23日(日) 岐阜市北部コミュニティセンターで岐阜市椿洞の産廃問題を考える勉強会が、石井亨さん(香川県議会議員)、中村梧郎さん(フォト・ジャーナリスト)を講師にお迎えして開かれました。

会場には150名ほどの方が入り、メモをとるなどとても熱心に耳を傾けていました。

石井さんは、当時日本最大と言われた香川県豊島の産廃不法投棄事件を、住民たちがどうたたかってきたかを話されました。その中で、県を動かすためにはまず県民の説得をと、県内100ヶ所での勉強会を開かれたそうです。産廃問題は決して他人事ではなく、地域の住民から県民一人一人がしっかりと正しい意識と知識を持って取り組むべきことと痛感しました。

中村梧郎さんは、ベトナム戦争で使われた枯葉剤に含まれるダイオキシンによって身体に被害を受けた住民達の画像を見せながら、産廃の中の廃油・廃液や中間処理で出るダイオキシンの事などを話されました。産廃から地下にしみこんだ有害物質を含んだ汚水や、焼却時に発生する煙に含まれる有害物質などが、近隣に悪影響を及ぼす事は必至です。

子どもたちに安心・安全なくらしができる町を残すために、また、この事件で崩れてしまった観光都市・岐阜の風光明媚なイメージを取り戻すためにも、香川県の成功例に学び、ひとりでも多くの方にこの問題に関心を持ってもらう事が大切です。

こんな大きなゴミ問題に発展してしまった事は残念でたまりませんが、まず私たち自身のゴミの出し方から見直してみるのも事大切だと思いませんか。

(MK)